

「排水対策の徹底」と「適正な播種量」で目標栽植本数を確保！

1 圃場準備

- ・額縁排水溝や心土破碎の排水対策を徹底する。
- ・必ず石灰質資材を施用し、発酵ケイフンを積極的に施用する。
- ・ヘアリーベッチ作付け圃場では、大豆播種の7日前頃を目安にフレールモアで細断する。

＜土づくり資材の施用量＞ (10a 当り)

土壌pH6.0～6.5に矯正		有機物の施用	
資材名	施用量	資材名	施用量
石灰質資材	100kg以上	発酵ケイフン	100～150kg

2 播種作業

(1) 作業日程等

- ・青立ち株の発生が多い場合は、6月1日以降に播種する。
- ・土壌が十分に乾いた状態で、耕起から播種の一連の作業は1日で実施する。

(2) 播種量

- ・品種と播種時期に応じた播種量となるように、必ず事前に目皿とスプロケットを調整（裏面参照）し、落下粒数を確認する。※スプロケットの組合せは裏面参照
- ・青立ち株の発生が多い場合は、栽植本数の上限を目標に播種する。

＜播種量＞

品種	播種時期	栽植本数(本/10a)	播種量		使用目皿
			1mあたり	大粒(kg/10a)	
エンレイ	5月26日～6月上旬	14,000～16,000	13～15粒	5.2～5.9	B-22
	6月中旬	16,000～18,000	15～16粒	5.9～6.7	
シュウレイ	5月26日～6月上旬	12,000～15,000	11～14粒	4.8～6.0	B-33
	6月中旬	15,000～18,000	14～16粒	6.0～7.1	

※播種量は苗立率90%、条間80cm、百粒重：エンレイ 33.4g、シュウレイ 35.7gの場合

(3) 基肥量

- ・単作、麦あとに応じて基肥量を調整する。
- ・発酵ケイフンを施用した圃場は、1～2割減肥する。
- ・青立ち株の発生が多い場合は、2～3割減肥する。

＜基肥量の目安＞

基肥名	10a当り施肥量
BB基肥084	単作 30kg
	麦あと 40kg
	※ヘアリーベッチを すき込んだ場合:0～15kg
LPs大豆専用	単作 25kg
	麦あと 30kg

砕土率が低いと苗立ちがばらつき、
除草剤の効果が不安定



(4) 播種作業

- ・トラクターの車速は「低速」、ロータリは「高速」とし、砕土率を高める。
- ・播種深度は3cm程度を目安とする。

(5) 播種後の排水対策

- ・播種後の溝や額縁排水溝を手直しするとともに、確実に排水口へ連結する。

3 除草剤散布

- ・播種後は速やかに、除草剤を散布する。
- ※散布直後の多量の降雨があると薬害が生じる恐れがあるため、天候を見極めて散布する。

＜播種後の除草剤＞

薬剤名	10a当り散布量
ラクサー乳剤	400～600ml+水100L
プロールプラス乳剤	
ラクサー粒剤	4～8kg

4/1～5/31 春の農作業安全運動実施中！

大豆播種機のスプロケット組み合わせ表

令和6年度

※条間80cm、苗立率90%、百粒重「エンレイ」33.4g「シュウレイ」35.7gの場合

※土質、作業速度等により多少異なるので、目安として使用

ADRG/AFRGシリーズ
ASFRGシリーズ



品種	播種時期	栽植本数 (本/10a)	播種量		使用目皿	スプロケット	
			1mあたり	大粒(kg/10a)		目皿	車輪
エンレイ	5月26日～6月上旬	14,000～16,000	13～15粒	5.2～5.9	B-22	10～11	13
	6月中旬	16,000～18,000	15～16粒	5.9～6.7		10	14
シュウレイ	6月上旬	12,000～15,000	11～14粒	4.8～6.0	B-33	10～11	13
	6月中旬	15,000～18,000	14～16粒	6.0～7.1		10	14

TDRG/TFRGシリーズ
TDR/TFRシリーズ



品種	播種時期	栽植本数 (本/10a)	播種量		使用目皿	スプロケット	
			1mあたり	大粒(kg/10a)		目皿	車輪
エンレイ	5月26日～6月上旬	14,000～16,000	13～15粒	5.2～5.9	B-22	14	9～10
	6月中旬	16,000～18,000	15～16粒	5.9～6.7		13	10
シュウレイ	6月上旬	12,000～15,000	11～14粒	4.8～6.0	B-33	14	9～10
	6月中旬	15,000～18,000	14～16粒	6.0～7.1		13	10

※目皿周辺の調整

(1)メザラブラシ目皿とメザラブラシの間に1.5～2mmの隙間が空くように調整します。

(2)イタノツカ目皿に軽く接する程度に、図の(※)あたりを曲げて調整します。

